

山田みやこの活動報告

令和5年10月14日(土)

令和5年度宇都宮男女共同参画に関する市民講座 平和を守り育てるには～真のジェンダー平等がカギ～

講師 宇都宮大学国際学部教授 清水奈名子氏

1.戦争：人権・民主主義について

戦争と大規模な人権侵害

ナチスドイツとジェノサイド（集団殺害）

日本における市民と犠牲の歴史

沖縄戦（1945年）の子ども兵

戦後引き上げ者の苦難

戦後も続く被害

軍人や遺族の恩給は復活。しかし、女性・戦争孤児などの多様な被害は救済されず。

日本国憲法前文

政府の行為によって、再び戦争の惨禍が起こることのないようにすることを決意し、ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する。

われらは、全世界の国民がひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。

2.原発事故後12年目の「原発回帰」

2022年8月24日岸田首相原発新增設への転換

2023年9月時点の再稼働状況

原子力発電所54基中12基が稼働

東日本大震災以降24基稼働中

2023年2月報道により再稼働が原発事故以降初めて過半数となった

↓

しかし、原発に頼らず電力供給できるはず！

3.原発事故被害の不可視化と語りにくさ

被害はなぜ見えにくくなったのか

被害当事者が抱える原発事故の「語りにくさ」差別されるのが怖い

原発事故被害の不可視化とジェンダーの関係

栃木県北アンケート報告会で、社会的関心を持たない女性という女性像がある一方、発言をする女性は活動家（運動家）としてレッテルがはられる。

私が女性であったために、男性と同じことを訴えてもきちんと対応してもらえなかった経験。

自己責任論が増幅する被害

右か左か選ばなくてはならなかった。しかし、あなたが選んだものだと言われてしまうが、選びたいと思う選択肢なんて一つもなかった。（双葉町から埼玉県に避難した女性の言葉）

4.女性の政治活動をめぐる課題

自治体レベルでの女性の政治参加率の低さ

福島県の地町村議会の女性議員の割合（331人中33人10%）

福島県議会の女性議員の割合（57人中5人8.8%）

5.なぜ原発事故と事故被害を記録するのか

被害の記録がないので、そのような被害はなかったとされる

多様な被害について当事者が話す機会を閉ざす

↓

東電・国の責任の曖昧化

6.社会問題の話しにくさ

憲法改正・北朝鮮核開発・原発再稼働・性差別

7. 平和のために戦争は必要か

ユネスコ憲章（1945年）

戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。
政府の政治的及び経済的取極のみに基づく平和は、世界の諸人民の一致した、しかも永続する誠実な支持を確保できる平和ではない。よって平和は失われないためには、人類の知的及び精神的連帯の上に築かなければならない。

8. 「弱さ」を受け止める「強さ」

ケア労働からつむぎだされた智恵

- ①「こわれもの」として人間に向き合う
- ②「弱者」立場に立った社会を思い描く
- ③未来の世代をここにかける

私たちの自身が「加害者」になることもある

=人間の「弱さ」を受け止める「強さ」

※心の中の平和のとりでという言葉に感動

偏見や無知で追い詰めたり攻撃するのではなく、一人一人かけがえのない存在を認め、互いを理解する
競争社会はごく一部、軍備増強はその結果大きな格差と犠牲を生む

最後に

「もし、一人の心が壊れるのを止めれるなら、わたしの一生は無駄にならないでしょう

もし、一人の人生の苦痛を癒し、痛みをやわらげられるのなら

もし、弱った一羽のコマドリをもとの巣は戻すことができるなら、わたしの一生は無駄にならないでしょう」

という、エミリ・ディキンソンさんの言葉で終わった

